



第5回九州女子ミッドアマチュア選手権競技 第5回九州女子シニア選手権競技

競技報告 (2017/9/7)

写真と記事 : M. Kikutake

女子ミッド 7オーバー 79

渡辺恵理(チェリー宇土)

プレーオフ制し2年ぶり3度目のV

女子シニア 10オーバー 82

本田月枝(くまもと城南)が初優勝



両選手権は9月7日、福岡県太宰府市の太宰府ゴルフ倶楽部(6080㎡、パー72)で行われ、女子ミッド(M)は7オーバーの79で並んだ2人によるプレーオフの末、35歳の渡辺恵理(チェリー宇土)が46歳の松尾麻子(佐賀クラシック)を下し2年ぶり3度目の優勝を飾った。女子シニアは10オーバー、82で回った61歳の本田月枝(くまもと城南)が2位の山口美帆(佐世保、53歳)に1打差をつけて初優勝した。(写真は優勝した渡辺恵理①、本田月枝②の両選手)

たたきつける雨に4回、計2時間33分の中断

選手権は25歳以上の女子Mアマに60人(欠場3人)、50歳以上の女子シニアに83人(欠場5人)が参加して、いずれも18ホールストロークプレーで行われた。

この日の福岡地方は終日、強い雨に降られた。まずスタート直後には雷雨で35分間中断したのを皮切りに、再開17分後にはたたきつける雨にコースコンディションが悪化して中断…。結局、計4度、2時間33分の中断で競技はべた遅れとなり、最終組がホールアウトしたのは車によるグリーン照射の準備をする中での午後6時37分だった。



ミッドの渡辺は5回の大会の3度を制す

6080ヤードと過去最長のヤーデージ。これに、雨、中断と恵まれないコンディションで選手たちはスコアメイクに苦戦した。

そんな中で7オーバーで並んだ女子ミッドのプレーオフは、2ホール目、バーディーを奪った渡辺がパーの松尾を下して、勝利を手にした。渡辺は5回の大会のうち3度で優勝。1打差の3位は安田和歌子（福岡、41歳）で、さらに1打差の9オーバー、4位に若松和代（大隅、48歳）、11オーバーの5位、高田雅野（西戸崎シーサイド、47歳）だった。前回優勝の木村紀子（若宮、27歳）は15オーバーで17位タイ。

（写真左はプレーオフに臨む松尾麻子[㊦]と渡辺恵理[㊧]）



シニア本田は初のビッグタイトル

女子シニアは、前半3ボギー、1ダブルボギーの41で折り返した本田月枝が、後半も同じように41で回り、9ボギー、1ダブルボギーの83とした山口に1打差をつけて逃げ切った。さらに1打差、12オーバーの3位タイには平岡美智子（北山、57歳）、本田千鶴（高遊原、54歳）と第1回大会優勝の伊藤京子（志摩シーサイド、62歳）の3人が並んだ。

日本女子ミッドは上位12人

日本女子シニアは上位14人が出場権

この試合の結果、第22回日本女子ミッドアマチュア選手権（11月16～17日・愛知県、名古屋GC）は13オーバーの7位タイまでの10人と、14オーバー、11位タイの6人中、マッチングスコアカードで選ばれた2人の計12人が、第25回日本女子シニア選手権（10月26～27日・兵庫県、加古川GC）は15オーバー、10位タイまでの14人がそれぞれ出場権を獲得した。

また、昨年の日本シニアで3位タイに入ってシード権を持つ荒田つゆ子（いぶすき、55歳）は、今回の九州女子Mアマでも7位タイに入り、両日本選手権への出場権を手にした。



渡辺恵理

V3は第一人者の証明

アウトの1組目のスタート。未明からの雨は降りやまず、1ホール目はパーで切り抜けて、2番（パー5）は3打目でグリーンをとらえたところで、雷鳴で中断。35分後の再開では、この上からの1.5mmを沈めてバーディーとし、まずは無難に切り抜かれた。このあと、6、7番で連続ボギーとしたものの、8番（パー3）ですかさず取返し、前半は全選手中のただ1人のパー



プレー、36のスコアで折り返した。

ところが、後半に何と、バーディーなしの3ボギー、2ダブルボギーで43を叩いた。集中力が切れた？ には、口渋りながら「実はふくらはぎが（こむらがえしのように）ピリピリして、踏ん張りがきかず、ショットがいつも通りに行かなかった」と言う。

結局は松尾に追いつかれて自身初めてのプレーオフになったが、2ホール目にはバーディーで決めて決着をつけたところはさすがだった。

高校時代はソフトボール選手。高校3年の18歳の時、父親に勧められてクラブを握ったのがゴルフの始まり。ジュニアや女子選手権で活躍したわけではないが、ミッドアマのカテゴリーができてから、活躍の場を見つけた格好。5度の九州大会の3度で優勝したのだから、押しも押されぬミッドアマのチャンピオンだ。

あとは、日本選手権。これまでの最高位は2年前の6位タイ。今年目標は「ベスト5以上」とは渡辺だったが、「ジャパンまでにはきっちりと体力もつけて」と意欲を見せた。 **（渡辺の写真は「ゴルフタイムス」提供）**

シニアで初Vの本田月枝

急死した亡き夫に励まされて…のラウンド

バーディーなしで6ボギー、2ダブルボギーの10オーバー。「ゴルフはボロボロだった。水を含んだラフは重いし、目いっぱい振らんと…」とはいうものの、収穫もあったという本田だ。朝の練習グリーンで「高麗芝にいいから」と、パターのグリップを握る左手は人差し指を軽くシャフトに添えるようにして打つと、これがラウンドでうまくいった。アイアンも、ボディーターンで打つようにすると、シャンクも出なかったそうで、インタビューに答える口調は生き生きとしていた。

昨年は熊本地震で御船町の自宅が半壊。現在は民間のみなし仮設住宅住まいだが、今年2月、くも膜下出血で突然、夫に先立たれるという不幸も重なった。63歳だった。よくゴルフも一緒に回る「仲間、でもあった。

それで、この選手権は「日本シニアに出たい」と目標を据えて出場した。土砂降りの雨で中断を繰り返しながら、気持ちを切らさなかったのは、ラウンド中の亡き夫との会話があった。「お父さん、私、頑張るけん」と空に向かって言うと、「あきらめるな、と答えが帰ってきたような気がした」。こうやって自分を奮い立たせた結果が、初優勝につながったのだ。

簡易郵便局に勤めながらのゴルフ。半壊した自宅は取り壊し、子供たちと協力して建てなおす。再建に向かって負けられない。それだけに、今年日本女子シニアにかける気持ちにも気合が入っている。「いつもは参加するだけだった。今年はちょっと大人になってきたい」。本田の歯切れは良かった。